

小学校第4学年 道徳学習指導案

日時 平成25年10月10日(木) 第2校時

指導者 教育センター所員 野中 皇児

1. 主題名 『友達』 【内容項目2-(3) 友情】
2. 資料名 「友だちって、いいよ」 (出典 どうとく きみがいちばんひかるとき 光村図書)
3. 主題設定の理由

○ねらいとする価値について

4年生の児童にとって友達という存在は、家族以外では特に深く関わることになる存在であり、仲間として互いに影響し合いながら学校等で生活をしている。また、似た体験や共通の話題、互いの考えなどを交流しながら、成長と共に互いに大きな影響を及ぼし合っていく。

良い友達関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情を育んでいくことが大切である。また、健康的な仲間集団を積極的に育成していく必要がある。

○児童について

本学級の児童は、元気に明るく学校生活を送っている。『笑顔いっぱい元気にあいさつ力を合わせてみんなが楽しい4年2組』を学級目標とし、学習や学校行事、当番活動や掃除等がんばって取り組んでいる。

元々親しい友達とはお互いに優しく声をかけ合う姿などがよく見られる。一方、いろいろな友達と積極的に関わり、協力して活動するという点でまだまだ課題がある。そこで、授業に小集団活動を意識して取り入れ積み重ねている。このような児童に、友達同士の関わりのよさを理解させ、相手を思う気持ちの素晴らしさに気付かせたい。

○資料について

本資料は、『ありがとう、貴嗣一わが子がくれた12年間の幸せ』(著：岡田節子 幻冬舎)を参考に、光村図書編集委員会が作成した実話に基づいた資料である。病気の男の子の回復を願い、いろいろな方法で励ましたり助けたりする友達と、その友達の思いに応えようとする男の子との心の交流が描かれている。相手を思う気持ちや互いに助け合う友情の素晴らしさを感じ取れる資料である。

本資料を用いた学習を通して、相手を思う気持ちの大きさが、奇跡的な出来事を生むことにつながる可能性があることに気付かせたい。さらに、友達に対して自分ができたいことをしたいと思う気持ちについて考えさせたい。

○指導について

導入では、事前にとっておいたアンケートの結果を提示し、本時は友達のことについて考える時間であることを伝え、展開へとつなげる。

展開では、まず「一番心に残ったところはどこか」を問い、数人に発表させる。その後、友達を思う気持ちが、奇跡的な出来事を生む可能性があることに気付かせる。次に、中心発問として、主人公であるまさき君が3か月もの訓練をがんばった理由を問い、道徳カードに書かせる。ここでは、友達の励ましに応えたいという主人公の強い思いに気付かせる。そして、元気になり登校してきたまさき君の姿を見たクラスの友達の心情を考えさせる。

終末では、スライドショーで子どもたちのこれまでの姿(友達との触れ合い等)を見せることで、友だちに対する思いを高め、本時の感想を書かせる。

4. 本時のねらい

資料の登場人物の温かい友達関係に触れることを通して、相手を思う気持ちの素晴らしさに気付かせ、これからはもっと友だちのことを考えて、自分に何かできることをしていきたいという実践意欲を高める。

()

まさき君ががんばった理由を道徳カードに書いている。

●発問の後に発表した友達の意見を聞いてどう思ったのかを問い、それを道徳カードに書くよう促す。

◇まさき君が訓練をがんばった理由について考えることができたか（道徳カード）